

機関番号：34310

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20530122

研究課題名 (和文) 日本の政治過程における言動の特徴と効果：政治家と聴衆の関係への考察

研究課題名 (英文) On the characteristics and effects of verbal behavior in the political process in Japan: Inquiring the relationship between politicians and their audiences

研究代表者

フェルドマン・オフエル (FELDMAN Ofer)

同志社大学・政策学部・教授

研究者番号：50208906

研究成果の概要 (和文)：日本の選挙期間中の政治集会における候補者演説の内容を分析し、演説者が用いた修辞法を一覧表にまとめ、これらを「明白な修辞法」「暗黙な修辞法」とそれぞれに対して聴衆の反応（拍手や笑い、声援、相槌など）を明確に区別することができた。また、候補者の当選確率と聴衆の反応とは関係がないことから、日本の政治集会における話し手の修辞法の主な目的は投票を集めるというよりも、聴衆にとってはむしろ候補者や彼らが所属する政党に対する支持を表明するきっかけになるだろうという仮説を立てた。

研究成果の概要 (英文)：Analysis of candidates' speeches in political gatherings during Japanese election campaign period enabled to identify the rhetorical devices they used, to distinguish between "implicit" and "explicit" rhetorical devices, and to detail the overall pattern of the audience' affiliative responses (applause, laughter, cheering, *aizuchi*, and combinations of these responses). The candidates' electoral success showed no significant correlations either with overall affiliative response rate, or with rates for applause, laughter or cheering. It is proposed that the prime function of affiliative response invitations at these meetings is not so much to win votes as to give the audience the opportunity to express their support both for the candidates and for the political parties they represent.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：政治的コミュニケーション、政治集会、政治家の演説、政治的修辞法、政治的リーダー

1. 研究開始当初の背景

政治演説には、様々な公の話、例えば大

学の講義や各種の訓練セミナー、宗教での説教などとは異なる、明らかな特徴がいくつか

ある。最も明確なのは、聴衆が集団となって是認や親和（例：拍手、かけ声、同調する笑い、うなずき、微笑みなど）、あるいは否認（例：ブーイング、野次など）を示すことだ。これらは聴衆が、相互関係の中で通常よりいっそう行動的に、積極的な役割を取るということだ。こういった反応を造り出すことが、聴衆が話に注目するという、堅固で明確な証拠となる。政治演説関連の研究では、聴衆の集団的反応は心を打たれた内容に対して自然発生した単純な反応ではないと主張されている(例：Atkinson, J.M. Our Masters' Voices. London & New York: Methuen, 1984; Heritage, J. & Greatbatch, D. Generating Applause: A Study of Rhetoric and Response at Party Political Conferences. American Journal of Sociology, 1986, 92, 110-57)。ある7つの修辞法 (rhetorical devices : つまり一リスト、対比、パズルの解法、見出しと誓約、体勢の明確化、組み合わせ、追求) によって、話し手がいつでもどこで反応すべきかを指示し、一貫して効果的に聴衆の反応を引き出すと言われる。結果としてこういった方策は、話し手と聴衆が行為を調整する (聴衆の「行為」が是認や否認を限定的にしか示さないものであったとしても)。

2. 研究の目的

本研究は、日本の政治集会における政治家と聴衆との関係に焦点を当てている。特に、話し手（政治家、候補者）と聴衆との間どのような相互作用が発生するか、聴衆の反応は話し手の発表の内容や方法に即座にどういった影響を与えるか、などを国際比較の観点から検証し、明確にすることを目的とした。

3. 研究の方法

欧米諸国、特にイギリスやアメリカなど

で行われた研究成果に基づいて作られた理論的枠組み、さらに著者が日本の 2005 年と 2007 年の参・衆院選挙の時期に行われた事前の研究の分析結果をベースに利用し、2009 年の衆院選挙時期の京都府の各政治集会における演説を録画し、18 人の候補者（計 36 演説）のテープおこしを行った後、話し手の言葉に対する聴衆の反応を区別した上で、欧米で行われた同様の研究に基づいて、基準となる修辞法の一覧表を作成した。

4. 研究成果

本研究の重要な成果は次の通りである。

(1) 演説者が用いた修辞法の一覧表は、①リスト②対比③問題提起と解決策の提示④見出しとオチ⑤立場の明確化⑥追求⑦組み合わせ⑧挨拶をする⑨感謝を述べる⑩同意を求める⑪冗談を言う⑫お願いをする⑬選挙活動に関すること⑭その他、である。

(2) これらに対して聴衆の反応を、①拍手②笑い③声援④相槌など、に区別した。

(3) 反応の発生回数の組み合わせについて【冗談-笑い】が最も多く 123 回、反応の全体に占める割合は 34.1%であった。次に【お願い-拍手】が 61 回で全体に占める割合は 16.9%、【感謝-拍手】が 36 回で全体に占める割合は 10%であり、上記の 3 つで全体の 61.1%を占めている。また、他の研究と比べて日本独自の修辞法（一覧表の⑧-⑭）は合計 292 回、全体に占める割合は 81.1%になることが分かった。

(4) 欧米で行なわれている同様の研究と比べると、日本の話し手が用いた「明白な修辞法(一覧表の⑧-⑫、⑭)」と「暗黙な修辞法

(①-⑦)」に明確に区別することができる。前者の全体に占める割合は 76.1%、後者は 19.7%であった。

(5) 聴衆の話し手(候補者)の言葉に対する反応と選挙の結果(当選や落選)との間には相関関係は見当たらなかった。あくまでも有権者にとっては政治集会における候補者の話や雰囲気などは投票行動に関する1つの変数にすぎず、決定要因ではない。

(6) 今後さらにこのような政治的コミュニケーションの研究を通じて日本と世界との相違点や類似点を明らかにし、各政治文化における政治集会の特徴や効果について明確にすべきである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① Bull, P. & Feldman, O. "Invitations to Affiliative Audience Responses in Japanese Political Speeches," *Journal of Language and Social Psychology* [USA], 2011, 30 (2), pp. 158 - 176.

[学会発表] (計8件)

- ① Feldman, O. & Peter B., "Understanding Audience Affiliation in Response to Political Speeches in Japan," *The Wuerzburg International Symposium on Dialogue in Politics*, Wuerzburg, Germany, September 13, 2010.
- ② Feldman, O. "Political Speeches and their Effect on the Audience during

the 2009 Election Campaign for the National Diet in Japan," *The 33rd Annual Scientific Meeting of the International Society of Political Psychology*, San Francisco, USA, July 7, 2010.

- ③ Feldman, O. "Writing with Wolves: Interactions between Politicians and Journalists in Japan," *The 35th ECPR General Conference*, Potsdam, September 12, 2009.
- ④ Feldman, O. "Political Speeches and the "Generation of Reactions" during Political Campaigns in Japan," *The 32nd Annual Scientific Meeting of the International Society of Political Psychology*, Dublin, July 14, 2009.
- ⑤ Feldman, O. "Media-Politics Relationship in Japan: Cultural Dimensions of Newsgathering and Discourse," *The 59th Annual Conference of the International Communication Association*, Chicago, IL, USA, May 23, 2009.
- ⑥ Feldman, O. "The Quality of Democracy and the Japanese Political Map: From One and A Half Political Party System to Two-Party System," *International Seminar: Political Parties, Changes and Continuities in a Global Context*, Mexico City, Mexico, November 26, 2008.
- ⑦ Feldman, O. "On Cliché and Other Bla Bla Bla (*nantoka kantoka*) in Communicating Politics in Japan." *The 31st Annual Scientific Meeting of the International Society of Political Psychology*, Paris, July 12, 2008.

- ⑧ Feldman, O. “National Character, Prime Ministers, and Shadow Shoguns: Symbolic Leadership in Japan.” *Focus Asia: Moral and Political Leadership in Asia meeting*, Lund University, Sweden, May 9, 2008.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

フェルドマン・オフエル (FELDMAN Ofer)
同志社大学・政策学部・教授
研究者番号：50208906

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし